

特集

# ストップ!

# コンビニ受診

私たちの医療を守るために

受付 受付 時間外 救急



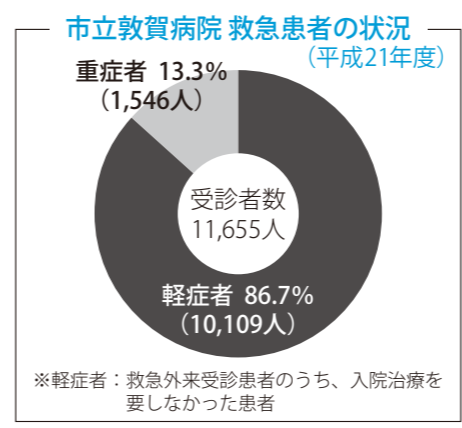
**【医療】**は、健康で充実した生活を送る上で欠かせないものです。けがをしたときや病気になったとき、私たちは当然のように病院で診療を受けることができます。しかし、そのかわり方によっては、いずれ医療を受けられなくなってしまうこともあるのです。今回は、最近増加している「コンビニ受診」の問題について取り上げます。

## 増えるコンビニ受診

皆さんは、「コンビニ受診」という言葉をご存じでしょうか。「コンビニ受診」とは、緊急を要しないようなほんの軽い症状で、休日や夜間の時間帯に、医療機関の救急外来を受診することをいいます。ちょうど近くのコンビニに行くときのように、気軽な感覚で診察に訪れるため、このように呼ばれています。

本来ならば、救急外来は命にかかわるような重い症状の患者を、緊急に受け入れるためにあるものです。しかし、軽症の人や、「平日は仕事があつて行け

ないから」「日中は混んでいて待たされるけれど、夜間ならすぐ診てもらえるから」といった個人的な理由で受診する人が年々増えており、深刻な問題になってきています。



## 市立敦賀病院の今

現在、市立敦賀病院の救急外来では、主に二州地区（敦賀市、美浜町、若狭町の一部（旧三方町））を対象に、手術や入院を必要とする重症患者の対応を行っています。24時間体制の中、年間約1,800台の救急車を含め、休日や夜間には年間約11,000人の救急患者を受け入れています。

休日・夜間は当直制をとっており、2人の医師が患者を診察しています（一部時間帯を除く）。しかし、1分1秒を争うような重症の患者が運び込まれ、2人では対応しきれない場合には、当直以外の医師も応援に駆けつけ治療にあたります。

さらに、一晩中多くの患者を診察した後にもかかわらず、翌日も引き続いて外来診療や病棟回診、手術などを行わなければならないのが現状です。

## 救急車 はタクシー代わり？

コンビニ受診の増加とともに、ここ数年で救急車の出動件数も増えてきています。「病院まで行く手段がない」「救急車を呼べば早く診てもらえるだろう」などといった理由で、歯痛やかすり傷といった軽症の患者が、安易な気持ちで救急車を使うことが増えてきているためです。

軽症患者のために救急車が全て出動してしまつたら、一刻を争う重症の人が利用できなくなってしまいます。「本当に必要な人が救急車を使わずに助からなかった」という悲劇を招いてしまうことになるのです。

本当に必要としている人のために…  
救急車は正しい使い方を！



## その先にある 地域医療の危機

時間外のコンビニ受診が増えた結果、医師や看護師は軽症の患者を診察するのに追われ、肝心の重症患者をしつかり診ることができなくなってしまう可能性があります。このような状況では、救える命すら救えなくなるかもしれないと。緊急の患者をいち早く診察するためには、本来の役目が果たせなくなってしまう

のです。

また、患者の数が増えることで医師や看護師ら医療スタッフの負担が大きくなると、その大変さから病院をやめてしまうスタッフも出てきます。そうになると、現場では人手が足りないという状況になり、少ない人数でやっていくために、やむをえず診療を制限しなければならなくなります。これはやがて、診療科の閉鎖という事態につながりかねません。もしそのようなことになれば、

私たち市民にとっても、必要な医療を受けることができなくなってしまうのです。





# 教えて! つるが環境みらいネットワーク



としこ 山本 敏子さん (人と水部会副会長)  
 かんいち 田中 完一さん (人と水部会会長)  
 としお 林 利夫さん (事務局長)

**★ つるが環境みらいネットワークとは…**  
 平成14年に策定された敦賀市環境基本計画に基づく取り組みを実践するグループ。環境教育や水環境の保全などに取り組む「人と水部会」と、資源のリサイクルなどに取り組む「資源部会」がある。委員は、市内事業者、各種団体の代表者、地区の代表者、一般公募の計35人。

敦賀の環境を良くしようと活動されている皆さんに、お話をお聞きました!

**Q. どんな活動をしているのですか?**

**林** ホタルの観察会を毎年6月に葉原で開催しています。また、環境問題についての理解を深めてもらうために、市内の小中学校や保育園などで「かんきょう紙芝居」を行っています。  
**山本** 毎年2月ごろには「環境フォーラム」というイベントを開催しています。他にも、環境に良い取り組みを行っている先進地を視察したり、環境に関する研修にも参加したりしています。

**Q. 委員になろうと思ったきっかけは?**

**林** 地球環境がどんどん悪くなっている今、子どもたちに良い未来、良い環境を残したい! という一心で参加しました。  
**田中** 敦賀の素晴らしい自然を市民の皆さんに知ってもらいたい、未来へ残していきたいと思ったからです。活動を通じて、市民の皆さんにも敦賀の自然を大切にしようと思ってもらえれば嬉しいですね。

**Q. この活動をしていてよかった!と思うのはどんなときですか?**

**山本** かんきょう紙芝居をしていて、子どもたちが素直に反応し、感じたことを実行に移してくれる姿には、元気をもらえますね。環境について考えてもらう機会をつくるのが、この団体の最大の役目だなと感じます。  
**林** 以前、各区の区長さんに、区で起きている環境問題や、それに対する取り組みについてのアンケートをとらせてもらったんです。各区が問題を解決しようとすごく真剣に取り組んでいるということがわかって、とても嬉しかったですね。

**Q. 苦労していることは何ですか?**

**田中** どうやって私たちの活動を知ってもらうか、とても悩めますね。どんな団体なのかかわかってもらえず、なかなか協力してもらえないこともあり



環境フォーラムでのかんきょう紙芝居

ました。それから、私たちの知識をどうやって皆さんに伝えていくか、その方法をいつも探しています。

**Q. 敦賀の環境をもっと良くするために、こうなれば良いなと思うことはありますか?**

**山本** 身近なところでは、各家庭で生ゴミを減らす工夫をして欲しいですね。ごみ出しのときは水切りをしっかりとる、肥料にして畑にまいて活用するなど、できることを少しずつでもやってもらえたらいいなと思います。  
**田中** お店でも、野菜などのバラ売りがもっと増えて欲しいです。食品のトレイはリサイクルできるけれど、回収するためには洗わなければならないので、結局水を使ってしまいますから。

**Q. 今後の目標を教えてください!**

**林** 市内には、各家庭でいろんな工夫をされている方々がたくさんいるので、そういう人たちを集めて運動を広げていきたい。もっと市民の人たちを巻き込んだ団体にしたいですね。かんきょう紙芝居やホタルの観察会も、どんどん範囲を広げてやっていきたいです。それから、各区にお邪魔して、活動の紹介をしたり、各区の現状を聞いたりできるような出前講座を開きたいです。私たちの活動で、少しでも敦賀の環境が良くなってくれれば嬉しいです。

## 当直医師の切実な声

市立敦賀病院には、医師が当直のときにつけている「救急日誌」があります。そこには、当直で救急外来の診察にあたる現場の医師たちが、率直な意見をつづっています。

**【救急日誌より】**

- ・急を要しない患者が多い。
- ・救急で来る患者さんで、「朝から症状があった」とか、「昨日殴られた」とか、時間内の外来で対応すべき患者が多い。
- ・夜型だからという理由で救急外来を受診。
- ・他の病院でもらっている薬が切れたからと、深夜に救急外来に来院。薬局ではない。
- ・朝の5時まで、20分ほどしか眠れなかった。
- ・6時間くらいの間に20人以上の救急患者を診なければならぬ現状。
- ・当院の救急外来はコンビニ受診が多いと思う(重症の患者対応が遅れがちになってしまう)。
- ・相変わらずコンビニ受診が多数。このような患者さんに忙殺されて、肝心の患者さんを見逃すのが心配です。

コンビニ受診を控えましょう

健康で充実した生活を送る上で欠かせない医療を、これからは安心して受けるためには、市民の皆さんの協力がが必要です。「自分一人くらいはいいだらう」という考えから、コンビニ受診がどんどん増え続ければ、やがては敦賀市全体の医療の崩壊へとつながってしまいます。時間外の診療は、単に日中の診察時間を延長しているわけではなく、軽症の場合、緊急

休日・夜間に具合が悪くなったなら

しかしながら、軽症かどうか、緊急かそうでないかは、個人では判断が難しいこともあります。「自分では判断できない」「すぐに病院に行かなければ危険だ」そう感じたときは遠慮せず、救急車を呼ぶか救急外来を受診してください。また、一人で悩むのではなく、日頃から困ったときに相談で

急でない場合は受診を控えましょう。

きる人や環境をつくっておくことも大切です。  
 ★休日の診療については、22ページの「休日急患診療」にも当番医を掲載しています。(受診する際は、あらかじめ電話でご確認ください)  
 敦賀の救急医療を守れるのは、私たち市民の利用の仕方次第です。病院の受診の仕方を、もう一度見直してみてください。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

**子育て中の皆さんへ** **福井県子ども救急医療電話相談**

電話番号 ☎ #8000 (または ☎0776-25-9955)

相談時間 毎日19時~23時

「夜、子どもが急に熱を出した。近くに相談できる人がいない」「夜間でもすぐに病院に行くべき? それとも翌日まで様子を見るべき?」そんなときはお電話ください! 小児科医がアドバイスをします。  
 ★相談の結果、軽症の場合は、まずかかりつけの医療機関で診療時間内の受診を心がけてください。  
 〈問合せ 福井県健康福祉部地域医療課 ☎0776-20-0346〉